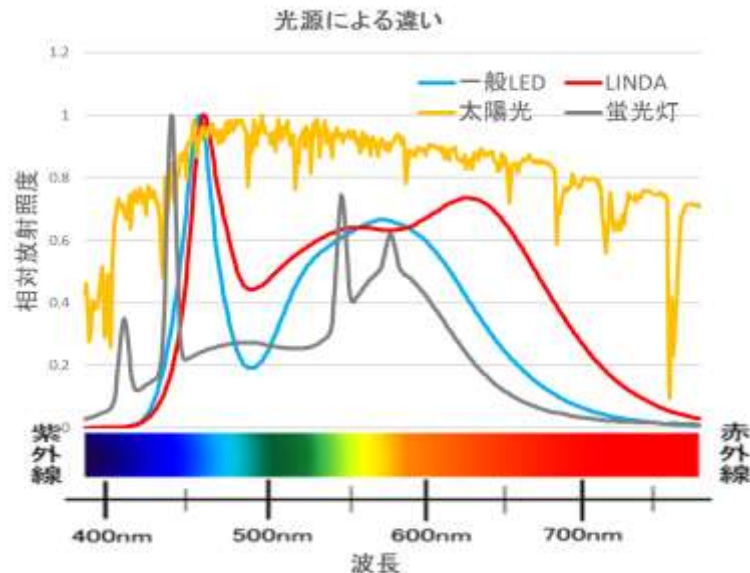


別紙 照明と色の関係解説

●太陽光と照明の比較

光や照明はスペクトルと呼ばれる波長ごとの強度グラフで表すことができます。人間の目では例えば 450nm 付近は青、530nm 付近は緑、700nm 付近は赤など波を色で見ます。太陽光、LINDA、蛍光灯、一般 LED の比較のグラフが以下の図となります。



太陽は満遍なくすべての波長を発光しています。蛍光灯や一般 LED は特定色が強く、特に赤色が弱いため、本来ある微妙な色合いの違いが分からなかったり、赤色が少ないため青白く見えてしまいます。LINDA は太陽光に近づけていて、全ての色が太陽光で見た時と同じように見えます。これは平均演色評価数という数値で表現され、太陽光を 100 として、蛍光灯は 70 台、一般 LED は 80 台、LINDA は 96 です。

●室内で見た色とお外で見た色はなぜ異なるのでしょうか？

太陽光は、7色や中間色など微妙な色が正しく見えるようになっています。人間の目は光が物体に当たった反射光で色を捉えています。太陽光は、どの色も発光しているので、太陽光の下では人間はすべての色を認識します。

蛍光灯や一般の LED 照明は青色や緑色、黄色が強調して発光されており、青白く見えます。赤などの色は見えづらく、くすんだように見えます。つまり、屋外で見たときと室内で見た時に起こる色の違いは色ごとの発色の強さの違いが原因なのです。

色を屋外と同じように認識するためには光（照明）は太陽光に近い特性でなければなりません。LINDA はすべての色を発色しており、屋外で見た色とほとんど同じに見えるのです。

あとは、明るさです。暗いとすべて黒っぽくなってしまいますので、明るいところであるということも重要です。

一般の照明はこの明るさだけを提供していて、色を見る光の質は対応できていないのが現状です。LINDA はこの太陽光に近いということが大きな価値であり、女性をきれいに照らしてまいります。